

若手教師・教育創造MTG ミーティング

第2回オンラインミーティング・レポート

日々の気づきや悩みを共有し、 自校の課題に向き合う活力を得る

新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業を経て、
全国各地の学校が自校の生徒に必要な新しい日常とはどのようなものか、模索している。
「若手教師・教育創造 MTG」に集まった若手教師は今、「with/after コロナ」の学校をどう見据えて、
どのようなことに興味を持っているのだろうか。オンラインで行われた2回目のミーティングについてレポートする。

若手教師が語った

最近の興味・関心

教科学習で習得した知識と体験を構造化させる口頭試験を実施したい。非認知スキルを評価するルーブリックの設定など、試行錯誤の真っ最中!

臨時休業明けの教科学習の進度などについて、学年間での目線合わせが不十分なのが気がかり……。

地域と連携した探究学習が、臨時休業で止まってしまった。外部連携を今後どのように進めていくか模索中。

探究のテーマを自分事として捉えさせるための指導のアイデアを、本ミーティングで知り合った先生からいただいた。早速試し、うまくいっている!

総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、生徒の成長を的確に可視化する調査書のあり方について考えているところ。

担当教科を問わず、全教師を巻き込んだ小論文指導体制を今年度こそ構築したい。よりよい組織づくりの視座がほしい。

若手教師がそれぞれの 興味・関心、悩みを語る

6月に開催された2回目のオンラインミーティングは、メンバーが「最近の興味・関心や気がかりなこと」を語ることからスタートした。全員が、授業実践、探究学習、進路指導の3テーマの中から好きなテーマを1つ選んでグループをつくり、同じテーマを選んだメンバーに向けて、最近気になっていることや気づいたこと、意見を聞きたいことを1人ずつ話し、グループ内で対話を行った。「授業実践」では、ICTを活用して他校とオンラインでつながりな

がら、異なる学校の生徒が同時刻に同じ授業を受ける実践などが紹介された。活動の中で見られた生徒の主体性・協働性の評価の仕組みなどが、さらに議論を重ねる価値のある話題として共有された。「探究学習」では、「with/after コロナの探究学習のあり方」「探究学習を軸にしたカリキュラム・マネジメント」を話題とするメンバーが多く、また、「進路指導」では、調査書の様式が変わり、「指導上参考となる諸事項」の欄が拡充される中での調査書作成のあり方や、1・2年次の進路意識の醸成について意見交換が行われた。オンラインミーティング後半で

私の教育活動 **喜怒哀楽**

～2人の若手教師の発表内容～

テーマ1 ● 授業改善

今後の学校の「授業」が担う役割とは？

岩手県立遠野高校 佐藤 紘大先生

先生方と一緒に質問（探究）したいこと

- ・普段どのような想いや、信念をもって授業づくりを行っているのか。
- ・また、先生方が考える今後の学校の「授業」が担う役割とは。

佐藤先生の 思い

Society 5.0 によって教育の個別最適化が進み、他者と協働して最適解や納得解を導いたり、新しい価値を創出したりする力の育成がますます重要になる。そうした、「よく生きる」力を育むための授業デザインとはどのようなものか、先生方と一緒に探究していきたい。

佐藤先生の発表に対する意見・感想



◎地域の人たちや企業で働く社会人の話には生徒に刺激を与え、新しい気づきを生む機会として今後ますます重要だと思う。学校という枠、教科という枠を飛び越える場面をたくさんつくりたい！



◎教科学習も、社会の様々な事象と関連づけて展開できる。本校では、家庭科がSDGs（*）の17のゴールとひもづけながら授業を行っているが、そうしたことを他教科でも積極的に進めたい。

テーマ2 ● 進路指導

「未来が分からない」と本気で悩む生徒にできることは？

三重県立神戸高校 森田 歩美先生

みなさんと、考えたい。

- ・どのように進路指導されていますか。「これが良かった・難しかった」
- ・うまく対応できず悩んでいるのは、私だけでしょうか。同じような悩みはありますか。
- ・生徒の深層心理を考えてみたい。
- ・「生きる力」を多方向から願って育てるには。

森田先生の 思い

面談などで「やりたいことが分からない」「何でもいい」といった言葉を生徒から聞くことが少ない。生徒が幸せな人生を歩んでいくために、教師としてどのような声かけをすればよいのか、みんなで考えたい。

森田先生の発表に対する意見・感想



◎先のことよりも半年後、1年後をイメージさせながら指導するようにしている。近い未来に向けて、今、何をすべきかを具体化させてはどうか。



◎何をを目指すのか、進路目標を決めることも大事だけれど、目標に向かって進む過程で身につく力が大切だと伝えることも重要だと思う。

対話を通して 探究心、向上心が高まる

今回のオンラインミーティングで

は、「私の教育活動 喜怒哀楽スピーチ」と題して、2人のメンバーが、「今後の学校の『授業』が担う役割とは？」『未来が分からない』と本気で悩む生徒にできることは？」というテーマで、自分の考えや感じている課題をスライドを使って発表した。それに対して、ほかのメンバーからは自身の体験を踏まえたアドバイスなどが送られた（左囲み参照）。

は、一人ひとりが持っている関心事や感じている課題にスポットをあてた対話に多くの時間が割かれた。メンバーからは、「みんなの悩みがどれも身近なもので、どの先生も毎日試行錯誤しながら過ごしているのだと分かった。臨時休業が終わり、非日常から少しずつ日常に戻る中で、毎日の業務をこなすのに精いっぱいになっているが、そうした中でも教育への探究心を忘れずにいたい」「全国の先生方と共通の課題を見いだすことができただけでなく、自分の中でさらに新たな課題が見えてきたように感じる。課題が課

題を呼ぶ……そんな体験ができた」といった感想が寄せられた。次代をリードする役割が期待されるメンバー同士で対話する中、多様な視点を学ぶことで「もっとチャレンジしてみよう」といった気持ちをも各メンバーが持つことができた今回のオンラインミーティング。熱い志を持つメンバーが集まったからこそ、お互いを励まし合い、新たな視座を提供する関係が生まれている。では、その場での気づきや学びを、自校や地域にどのように還元し、「創造のアクション」を生んでいくのか。今後の動きを期待したい。



* Sustainable Development Goals の略。2015年に国連が掲げた、持続可能な開発目標のこと。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など、17の目標と169のターゲットから成る。